

相模原市緑区で発見されたユビナガコウモリについて

清水 海渡*¹・秋山 幸也*²

*¹ 相模原動物標本クラブ *² 相模原市立博物館

はじめに

ユビナガコウモリ *Miniopterus fuliginosus* は、焦げ茶色の体毛と狭くて長い翼に特徴があり、昼間の休憩場所（ねぐら）や冬眠場所には主に洞窟などを利用するコウモリ類である（阿部ほか,2007）。日本では北海道、本州、四国、九州等に生息している。神奈川県においては、かつては三浦半島に多数生息していたようだが現在は消失した（広谷,2006）。現在の神奈川県では玄倉川青崩トンネル、石崩トンネル（山口・曾根・永田・滝井,2002）（山口,2006）や小田原市の旧烏帽子岩トンネル（山口・志村,2004）で確認されている。また相模原市緑区青根にある神ノ川孫右衛門トンネル・小洞トンネルで確認されている（山口・山口,2010）。しかし、報告例は少なく神奈川県レッドデータ調査報告書では絶滅危惧Ⅱ類の指定を受けている（広谷,2006）。今回、筆者らは相模原市緑区旧城山町にてユビナガコウモリを発見したためここに報告する。

確認状況

2016年10月22日に神奈川県相模原市緑区城山にある津久井湖にかかる城山大橋の歩道上に落ちているコウモリを市民が発見した（図1）。すでにコウモリは死亡していたため、拾得し筆者の清水に届けられた。死体は冷凍保存した後、仮剥製（図2）と頭骨標本（図3）を作製した。本個体の計測値を表1に示す（表1）。耳介が丸みを

帯び、前腕長が48.5mmあることと、頭骨の形状からユビナガコウモリと同定した。

表1. 計測値

性別	:	♂
全長	:	101.5mm
尾長	:	39.0mm
頭胴長	:	62.5mm
前腕長	:	48.5mm
後肢長（爪あり）	:	9.5mm
後肢長（爪なし）	:	7.0mm
下腿長	:	20.0mm
耳長	:	10.0mm
耳珠長	:	5.0mm
体重	:	11.5g

※拾得日：2016.10.22



図2 仮剥製



図1 拾得時の状況

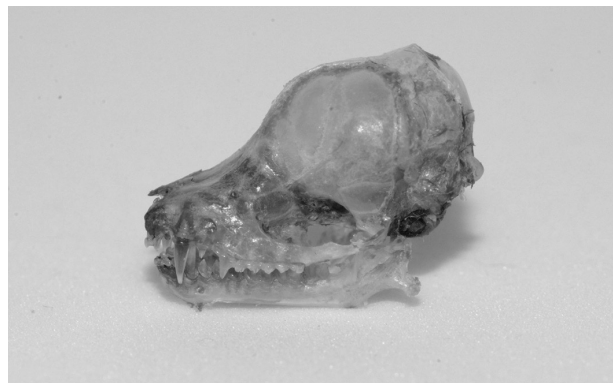


図3 頭骨標本

考 察

拾得された時点で背中から大きく出血しており、また左上腕骨を骨折していた。発見された場所は津久井湖にかかる城山大橋の歩道の上であり、交通量の多い道路に隣接しているため車両等との衝突事故で死亡したと思われる。

現在、神奈川県内においてユビナガコウモリが確認されている場所は丹沢山地と箱根山地に限られている。今後は津久井湖周辺においてユビナガコウモリが生息できる洞窟環境を発見すること、国土交通省国土技術政策総合研究所が提示している『コウモリ類の調査の手引き(案)』に基づき、バットディテクター等を用いた調査が必要であると考えられる。

謝 辞

第一発見者の朝比奈ゆかり氏にこの場を借りてここに厚く御礼申し上げます。

引用文献

- 阿部永・石井信夫・伊藤徹魯・金子之史・前田喜四雄・三浦信吾・米田正明,2005. 日本の哺乳類.改訂版.206pp.東海大学出版会,東京
- 広谷浩子,2006.哺乳類.高桑正敏・勝山輝男・木場英久 編,神奈川県レッドデータブック生物調査報告書.2006,pp.225-232.神奈川県立生命の星・地球博物館,小田原
- 山口善盛,2006.丹沢山地玄倉川流域におけるコウモリ類の隧道利用の季節変化.神奈川県自然誌資料,(27):45-49.
- 山口善盛・志村尚子,2004.小田原市の旧烏帽子岩隧道で見つかったコキクガシラコウモリとユビナガコウモリ.神奈川県自然誌資料,(25):5-6.
- 山口善盛・曾根正人・永田幸志・滝井暁子,2002.丹沢山地におけるコウモリ類の生息状況.神奈川県自然誌資料,(26):49-51.